

第4回東地区中心市街地複合施設あり方懇話会議事録（概要）

1. 日時 令和4年11月15日（火）17時～18時30分

2. 場所 舞鶴市役所 議員協議会室

3. 委員 9名（1名欠席）

宗本 順三 学識経験者（京都大学名誉教授）

尾上 亮介 学識経験者（舞鶴工業高等専門学校建設システム工学科教授）

谷口 知弘 学識経験者（福知山公立大学地域経営学部教授）

伊庭 八郎 八島商店街商業協同組合

名取 貴春 三条商店街振興組合

田村亜里寿 まちなかエリア新規出店者

村山 暢茂 舞鶴東自治連合会

百田 重男 舞鶴西自治連合会

上野 和美 まいづるネットワークの会

4. 懇話会次第

（1）開会

（2）議事

①事務局からの説明

②意見交換

③今後の日程について

（3）閉会

5. 意見交換内容（※主な意見は以下のとおり）

【基本的な考え方についての意見】

（1）まちのためになることを

◆若者をターゲットとした施設がない中で、まちの活性化に繋がる「起爆剤」は何か。

言葉だけにならないよう、もう少し議論したい。

◆人を集めるには旧マイコムの場所は中心的な役割を果たす場所であり、そこに若い人（保安学校、自衛隊も）が集まれる場所を設けて欲しい。

（2）次代を担う若者のために

◆次代を担う若者としては「高専生」も加えるべき。

◆旧マイコムに若者対象施設を作るのであれば、計画段階から高専生や高校生など学生を巻き込んで、若者自身がこの場所を作ったというストーリーができれば面白い。

◆子どもが関わることのできる仕掛けや仕組みが必要で、高専生や高校生が活動を後輩に繋いでいける仕組みが望ましい。

- ◆プロセスに若者（小中高校、高専、保安学校学生等）も関わってもらいながら進めていくことは重要。
- ◆「基本的な考え方」について、高齢者も対象とするべきという意見もあったが、やはり、次代を担う「若者」を対象とすべきと考える。
- ◆高齢者と子どもの間となる若い世代のために考えたい。
- ◆現在、若者と交流している人が関わってくれるようになれば話は進む。
- ◆商店街で開催されるイベントやお祭りなどに若者が参加できればまちが盛り上がる。

（3）将来を見据えた事業計画を

- ◆「基本的な考え方」としては、まず「将来を見据えた事業計画」が先に来て、その上でコストをしっかりと見極めた計画を練っていくことが重要。
- ◆次世代に負の財産を残さないという意味で「将来を見据えた事業計画」という視点は大事。
- ◆負の財産とならないよう、コストを検証しリアリティな計画を考えたい。
- ◆若者を育てるんだという考えを市として重点に置き、税金を投入して公設公営で若者を育てる施設を運営していくという方向性を打ち出すのもありだと思うが、いいかげんな財政計画に基づく、見切り発車ではいけない。

【東地区まちなかエリアの将来像と施設の姿】

（1）東地区まちなかエリアの将来像について

- ◆子どもや学生が増えていくという地域の将来像が見えれば、まちに灯が見え、商売も活性化すると思う。
- ◆旧マイコムの周辺にある空き家や空き店舗が今後活用され、小さくても魅力的な店が増えれば、自然と人が集うエリアとなることから、必ずしも旧マイコムがその役割を担う必要はない。（周辺エリアでの民間活力を促す取り組みが重要）
- ◆まちなかエリアの中心にある旧マイコムの場所を、地域の拠点として、市民の連絡場所や目印になるような活用ができれば、まちは良くなるのではないかと思う。
- ◆旧マイコムに人が集まるようなイベントを月に1回程度開催し、出店を募り、人通りが増える仕組みを考えてはどうか。
- ◆商店街内にも若者が利用できる施設を増やせばどうか。

（2）東地区中心市街地複合施設に期待する機能

① 若者同士が気軽に立ち寄れるたまり場

- ◆お祭りは、若者と主催者（大人）が一体となる仕組みが出来上がっており、旧マイコムもそういう若者と地域の大人が共に関われるスペースになればいいと思う。
- ◆いろいろな起爆剤となるものを若者自身が話し合い、考える場ができれば面白いまちになると思う。
- ◆若者が参加し主体的にまちづくりに関わるのは非常に重要だと思う。

- ◆祭りやイベントにどう若者を巻き込んでいくか、そういった活動の拠点の一つとして活用する可能性もあると思う。

② 駐車場機能

- ◆駐輪場ならいいが駐車場はいらなっている。
- ◆若者たちの行動パターンや移動手段などに見合う施設やまちにならないと、ウォークビリティ（歩きやすさ）の高いまちにはならず、若者を主体に考えるのであれば駐車場は必要ない。
- ◆ウォークブルなまちを目指すにしても、やはり中心市街地のどこかに駐車場は必要だと思う。
- ◆今の施設形態のままでは、旧マイコムの駐車場は使いにくく、大規模な改築が必要であると思っており、安全安心なリノベーションが容易に出来ればこのままの活用可能性はあると思うが、高齢者にとって、どこにどのような駐車場があれば、安心して買い物ができるのかという視点も必要だと思う。
- ◆将来的には、これから電気自動車に代わっていくことが想定される中で、駐車中に充電ができるなど次世代を見据えた駐車場でなければならないというのが重要な課題だと考える。

③ まちの活性化にも繋がる多様な施設・機能

- ◆1階は屋根付広場など開放的でオープンな施設（ガラス張りなど）にして、気軽に人が集まれるようにしたらどうか。
- ◆商店街には面白いお店がある中で、その中心地である旧マイコムをどうするのかを考えたら良いので、広いスペースや多くの役割を持つ大きな設備を設ける必要はないと思う。
- ◆まちの活性化のためには、若者が働ける場所を増やすべきと考える。
- ◆「若者」「女性」「高齢者」など区分せずに、世代を超えた縦のコミュニケーションがとれないかと思う。
- ◆若者のための施設にしていきたいという基本の思いはあるが、商店街周辺に駐車場が少なく他に大きな駐車場がない中で、これから足腰が弱ってくる高齢者を排除するのではなく、共生を求めたい。
- ◆若者を取り込むには、流行りのものを取り込むのが良く、月に一回、ダンスの発表会を開催し、そこに屋台を呼び込むなどしたら人が集まると思う。
- ◆旧マイコムの中に市の部署が出来て、施設を利用する若者を見守る仕組みが出来たら、公設民営に繋がる面白い動きになると思う。
- ◆eスポーツの場やスケートボードやボルダリング施設など公民連携して民間がビジネスとして運営できる施設としての活用も考えられるのではないかな。
- ◆一般の民家でも、たまり場となるスペースは作る事ができる中で、わざわざ大きく多目的なスペースを作る必要はないのではないかな。

【今後の検討課題】

- ◆現在、空洞化し流動化していないまちなかエリア（市街化区域）をどうするかという問題と旧マイコムの施設をどうするかという問題を同時並行して考えなければならないと思う。
- ◆担い手の確保、いろんな世代の市民が関わるのが大事。
- ◆空間作ってもコンテンツの担い手がいなければ宝の持ち腐れになる。
- ◆古くからあることをみんなで継承していくことが重要だと感じるなかで、世代間の縦の交流もしかけていってはどうかと思う。
- ◆縦の交流が背景にあってこそだと思うが、ここでは若者に光を当てようとする。
- ◆積極的に地元の人が動き、投資するとまちが活性化する。
- ◆行政でなく、住民同士で支える仕組みが自然に醸成されていくことがまちを良くしていく重要な視点であると思う。
- ◆民間活力を利用した運営（公設民営）も考える必要があるのではないか。
- ◆背後に多様な世代やまちの人の支えがないと若者を対象とした施設運営はできない
- ◆「やってはいけないことも考えなければいけない」という意見があったが、市の財政状況もしっかりと踏まえた上での建物をどうするかを判断してほしい。
- ◆公設公営のみではなく、公設民営という考え方も残しつつ、次世代を担う若者のためにという考え方を活かしていければ素敵だと思う。
- ◆若者向けの利用いいと思うが、誰が施設の運営を担っていくのかが見えない中で進めていくのは不安がある。

【今後の整備パターン】

- ◆次回、コストも見極めながら協議することとする。
- ◆減築という考え方もあるが、将来を考えればいくらでも活用方法はあり、空間というものは利用方法があればいくらでも活用できる。
- ◆みんなで使い道を考えて、それでも邪魔ならつぶそうと考えていくべきだと思う。
- ◆建物は舞鶴市のシンボルでもあり、あの場所は歴史的にも価値があると思っており、建物は残すべきと考える。

6. 今後のスケジュールについて

第5回懇話会（12月21日（水）の開催を予定）

これまでの意見を体系的にとりまとめ、議論を行う予定。